# ３つの目で見た郷土香川《第１４回》

## ～メタセコイアと三木茂～

さて今回は高松市の東隣の三木町にある「太古の森」と「三木茂生家跡」を訪れました。まず三木町に向うと右最上段写真のメタセコイアの図柄のある町境標識が登場します。これはメタセコイアを発見した三木茂の生家は三木町鹿庭でにあり、町の記念樹にも指定されていることからであります。

「太古の森」は山大寺池のほとりにあり、正面入口（右上２番目写真）は、三木町総合運動公園にあるＰ＆Ｇ海洋センター前にあり、少し進むと水上アベニューという浮き桟橋のような橋で山大寺池を渡って斜面を登っていくと太古の森となります。そこはメタセコイア 2700 本とディメトロドン、トリケラトプス、ティラノザウルスといった恐竜のモニュメントがあり、太古の昔を感じさせる雰囲気があります。記念の丘には三木茂をたたえた碑があり、また太古の広場には、メタセコイアの林に中に神秘的な雰囲気を醸し出している石のモニュメントがあります。

「三木茂生家跡（次頁最上段写真）」は、新川と葛野川の合流地点の角地にあり、記念碑と土蔵を活用した資料館が整備されています。また敷地内にもメタセコイアが植樹されており（次頁最下段写真）、静かな山村のたたずまいもあいまっていい雰囲気ではなかったのかと思われました。なお車では直接行くことができず川の対岸の駐車となり、近道しようとすると、河床にある丸太３本橋を渡らなければならず腰が引けてしまいました（笑）。

↑あぁ～　恐竜に食べられた・・・

メタセコイアは、これらの他三木町内には、香川大学農学部玄関前と香川大学農学部実験実習宿泊施設太郎兵衛館前（町内では最も早い 1950（昭和 25）年植樹）、三木町立三木中学校、鹿庭コミュニティセンターにも植樹されています。

三木茂（1901（明治 34）年～ 1974（昭和 49）年）は農家の子として生まれ、1918（大正 8）年に旧制香川県立農林学校（現香川大学農学部）を卒業、1921（大正 10）年に旧制官立盛岡高等農農林学校林科を卒業し、この頃に日

Copyright(C) 2012 香川県社会保険労務士会.All Rights Reserved.

本のフロラ（植生）を知りたいという念願を持つようになっていきました。

1922（大正 11）年に京都帝国大学理学部植物学科に入学、水生植物の研究にいそしむようになり、京都近郊の巨椋（おぐら）池、深泥（みどろ）池で現地調査を行っており、1925（大正 14）年の卒業後も助手として大学に残り引き続き研究活動を続けています。深泥池の水生植物は 1927（昭和 2）年に国の天然記念物に指定されているのも、研究活動の成果でしょうか。これらの過程で、泥炭や粘土に埋蔵されている半化石状態植物の研究にいそしむようになり、植物遺体研究のバイオニアになっていくのでした。

↑メタセコイアの独特な葉

1938（昭和）13 年ら理学博士となった三木茂は、橋本（和歌山県）から球果（針葉樹の果実）、土岐（岐阜県）から小枝の半化石状態植物から完全標本を得たことにより、セコイアやヌマスギとも異なる事が確認でき、新属としてのメタセコイアとなりました。これを 1941（昭和 16）年に日本植物学情報に論文発表しましたが、大東亜戦争開戦の影響もあり論文が諸外国にあまり広まりませんでした。しかし 1945（昭和 20）年に中国四川省磨刀渓村（現湖北省利川市）において絶滅したはずのメタセコイアが発見され、中国の北京静生生物研究所湖所長、米国ハーバード大学アーノルド樹木園メリル園長、米国カルフォルニア大学古生物学科チェイニー教授により 1948（昭和 23）年までに生きるメタセコイアであることが判明し、三木茂の論文の正しいことが示されました。

チェイニー教授から 1949（昭和 24）年に東京大学にメタセコイアの種子が送られ、日本において 100 万年ぶりの発芽にしたメタセコイアとなり、同年チェイニー教授は昭和天皇にメタセコイアの苗木と種子を献上、昭和天皇は早速吹上御苑に植えられました。昭和天皇はこの木を大変好まれたそうで 1987（昭和 62）年の歌会始に読まれたのが次の御製です（あけぼのすぎ／メタセコイアの和名）。

わが国のたちなほり来(こ)し年々(としどし)に
あけぼのすぎの木はのびにけり

《参考資料》
・三木町史　現代史編（平成 16 年　三木町発行）
・メタセコイア（平成 7 年　齋藤清明著　中央公論社発行）
・メタセコイアの命名者　三木茂博士の足跡
（平成 13 年　齋藤清明著　三木茂博士生誕 100 周年記念事業委員会）
・香川大学農学部同窓会　池戸会ホームページ

Copyright(C) 2012 香川県社会保険労務士会.All Rights Reserved.